

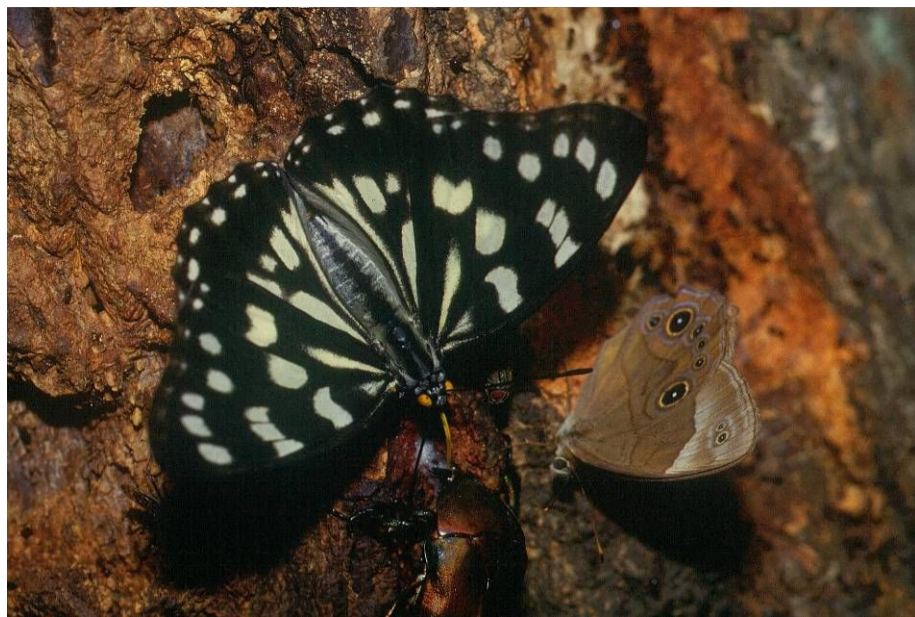
## ゴマダラチョウ

北海道南西部・本州・四国・九州に分布しています。

成虫は、平地の雑木林、社寺の境内、竹やぶの周辺などに生息します。飛び方は、軽快で梢の上をゆるやかに滑空するように飛びます。花の蜜は吸わず、汚物やクヌギ、カシ、ヤナギ類の樹液を好んで吸います。年2回の発生で、5～6月・7～8月に姿を見せます。

幼虫の食草は、エノキ、エゾエノキなどのニレ科の植物です。幼虫の形態はナメクジ状で、頭部によく目立つ2本の角状突起があります。色彩は緑色ですが、越冬時には汚れた褐色に変色します。

本種は幼虫の状態で越冬し、越冬幼虫はエノキの根際の落ち葉の裏面に多く、まれに樹幹上や葉上で越冬する場合も見られます。



### 富士市での現状

エノキがあれば、標高の低い所でも見るすることができます。例えば、田子地区や元吉原地区、木島地区、中之郷地区等が挙げられます。鷹岡地区や天間地区・須津地区の雑木林では多くの個体を見るすることができます。

ゴマダラチョウを確認したメッシュ

